

## 令和4年度全国学力・学習状況調査から

※本校生徒の結果分析より、以下のような特徴や改善点が見られました(○できている ●できていない)

## 〈学力調査〉

## 【国語】

- 「根拠を明確にして書く」に関する問いは、よくできている。日頃から、根拠をもとにして表現することや理由を考えることを大切にしたい学びの取組の成果が現れてきている。
- 「文脈に即して漢字を正しく書く」問題は、よくできている。
- 「助動詞の働き」や「表現の技法」などの言葉の特徴や使い方に関する事項の問題の正答率が低く、取組の工夫の改善・向上が必要である。

## 【数学】

- 「確率の意味を理解している」に関する問題はよくできている。
- 図形領域は、他の領域と比べ、全国平均との差が少ない。視覚的に捉えることや具体的な事象については、比較的取り組みやすいと考えられる。
- 「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」や「事柄が成り立つ理由を説明する」など、記述式の問題の正答率が低く、改善・向上が必要である。特に、説明・証明は無回答の生徒も多く、取組の工夫が必要である。

## 【理科】

- 無回答率が低く、不十分でも自分なりの解答を行うなど前向きに取り組む姿勢が見られる。
- 「地球」を柱とする領域は、よくできている。
- 「粒子」を柱とする領域は、どの問いに関する正答率が低い。分子などの視覚的に捉えることができにくいものをイメージしにくく、取組の工夫の改善・向上が必要である。

## 〈学習状況調査〉

- 平日に1時間以上、土日に2時間以上学習に取り組んでいる生徒は、全国平均よりも上回っており、家庭学習に前向きに取り組む姿勢が表れている。
- 地域の行事に参加している生徒が多く、地域や社会をよりよくしたいと考えている生徒も多数いる。
- 「普段、ゲームやSNS等2時間以上使用している」の項目は、全国平均とほぼ同じとはいえ、生徒の半数程度いる。中には、学習時間よりも多くの時間を費やしている生徒もおり、時間の使い方に課題が見られる。

※今後、学校として次のような目標を立て、対応していきます。

- ・家庭学習に前向きに取り組もうとしている姿勢がうかがえます。この生徒の姿勢や意欲を大切にしながら、生徒が「できた」と実感できる場面の設定をするなどの工夫をします。また、個々の課題の克服をめざし、学力の定着につながるよう取組を進めます。
- ・各教科の中で、自分の考えや思いを表現する練習を多く取り入れたり、生徒の苦手な分野に関する補充学習を行ったりするなどの工夫・改善を図ります。
- ・生徒の課題に対する困り感を教職員間で共有・確認し、課題の出し方や提出の仕方などの工夫により改善を図ります。

以上のような学校の指導について御理解いただき、御家庭でも御協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。